



「茗荷村」訪問記 (松原)

経営の難しさに少々疲弊しておりましたところ、『みんなで「茗荷村(塾)」を語ろう会 第一回』のご案内を、来年には開村30周年を迎える茗荷村から頂きましたので、参加してまいりました。

茗荷村とは、ご存知の方も多いとは存じますが、行政単位の村ではありません。故田村一二氏の理念で創設された農業生産を基盤とする団体です。様々な人が、子供からお年寄りまで、もちろん障がいを持つ方々も、ともに働きともに暮らしておられるところです。

会には、各地から種々様々な方が、おこでした。法人の理事長や施設長、運動の主宰者、大学の研究者、行政職などの方もおられました。夜を徹して語り合いました。

胸にささる言葉や、嘆息のするような深い目の色にも出会えました。

しかし、最も忘れられないのは、最初に出会った、村で暮らす人から頂いた何とも言えぬ暖かさのある「こんにちは」でした。

前穂の事業が今日あるのは、実に沢山の方々に思いやお力添えを頂いてきたお蔭であると、真に思います。これからも、お役に立ってゆきたい、そういう自分でありたい、そういう事業所でありたい、と願ってやみません。

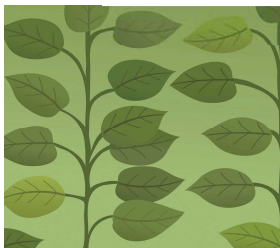
前穂通信

まえほ
つうしん

発行日	2010年10月1日
発行元	自立センター前穂 〒569-1022 高槻市日吉台 1番町21-18 072-689-8600



ショートからのお願いとお報せ



～御持参品について～

- ①. 御持参品には、全てにご記名の程、何卒、宜しくお願い致します。
- ②. 歯ブラシ、髭剃り器、などは、ご持参頂くのを基本としておりますが、万一お忘れの場合でも、歯ブラシなどして頂ける様に、標準品はご用意しておりますので、ご安心頂けますよう宜しくお願い致します。



編集後記 (山崎)

前穂通信が今回で70号を迎えました。この編集に携わり、6年弱が経過しました。10月でこの事業所も7年が経過し、8年目を迎えました。過去の前穂通信を久方振りに目を通しましたところ、様々なことがあったのを思い出しました。

問題提起をした記事、皆様からお叱りを頂いた記事、夢を語った記事、初の試みを報告した記事など、その当時、どのように考え行動したのか、改めて思い致しました。

A4のたった一枚ではありますが、夢や想いがたくさん詰まった記事を、これからもお届けしたいと考えております。忌憚のないご意見をお寄せ頂ければ幸いです。